

今週の為替相場見通し(2022年11月28日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		138.05 ~ 142.25	139.17	137.20 ~ 141.80
ユーロ	(ドル)		1.0223 ~ 1.0447	1.0403	1.0250 ~ 1.0550
(1ユーロ=)	(円)		143.68 ~ 146.10	144.66	143.00 ~ 147.00
英ポンド	(ドル)		1.1780 ~ 1.2153	1.2089	1.2000 ~ 1.2290
(1英ポンド=)	(円)	*	166.11 ~ 169.01	168.36	167.20 ~ 169.50
豪ドル	(ドル)		0.6585 ~ 0.6781	0.6756	0.6550 ~ 0.6850
(1豪ドル=)	(円)	*	93.13 ~ 94.14	93.93	92.90 ~ 94.90

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 甲斐 貴之

(1)今週の予想レンジ: 137.20 ~ 141.80 円

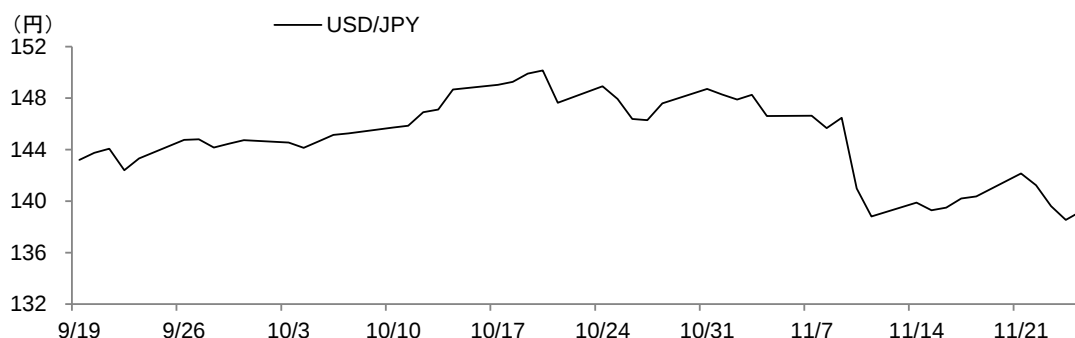
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週後半に下落、軟調推移となった。週初21日、140.28円でオープンしたドル/円は、中国における新型コロナウイルス感染者拡大を受けた中国元売り・ドル買い相場の中、140円台後半まで上昇した。海外時間はドル買い相場が続く中、一時週高値となる142.25円まで上昇した。22日、ドル/円は朝方に再度週高値まで上昇も、その後は米金利低下とともに142円を割った。海外時間は、ドル売り相場の中じりじりと低下し、141円台前半でのレンジ推移となった。23日、ドル/円は朝方一時140円台まで下落するも、その後はドル買いが優勢となり141円台前半でじりじりと上昇した。海外時間は、米新規失業保険申請件数や米11月PMI(速報)が市場予想対比で軟調な結果に終わり景気後退懸念が加速したことに加え、11月FOMC議事要旨において近い時期での利上げペース鈍化が支持されたことを受け米金利は低下し、ドル/円も139円台半ばまで下落した。24日、ドル/円は前日からのドル売り相場が続く中、138円台後半まで下落した。海外時間には、一時8月以来の水準となる138.05円まで安値を更新したが、ドル売り一巡後は138円台後半を回復した。25日は米金利が上昇する中で139円台半ばまで上昇したが、引けにかけてはやや水準を戻し、139.17円で越週した。

今週のドル/円相場は、米11月雇用統計を前に慎重な値動きになると予想する。FOMC議事要旨でも利上げペース鈍化が適切との見方が広がり、利上げペースの鈍化懸念が根強く意識されていることもあり、ネガティブな米経済指標にはドル売りで反応しやすい状況が続くそう。1日(木)に米11月ISM製造業景況指数の発表を控えているが、前回10月は2年半ぶりの低水準となった。項目別にみると、入荷遅延が9月の52.4から46.8へ、仕入れ価格も51.7から46.6へ大幅に低下しており、供給制約の一層の緩和が確認できた。一方、新規受注は9月の47.1から49.2と上昇も、依然として50割れの水準であり、FRBの利上げの効果が意識される内容となった。10月の事前予想は50.0であり、下振れるとドル売りが一段加速する可能性には気を付けたい。また後半には雇用関連の指標が続き、2日(金)には米11月雇用統計が予定される。こちらも市場予想比悪化すれば、利上げペース鈍化懸念が高まる可能性には留意したい。今週は29日(火)米11月コンファレンスボード消費者信頼感指数、30日(水)に米7~9月期GDP(改定値)、米11月ADP雇用統計、米バージュブック公表、12月1日(木)に米10月PCEコアデフレーター、米11月ISM製造業景況指数、2日(金)に米11月雇用統計が発表予定となっている。

(3)先週末までの相場の推移

先週(11/21~11/25)の値動き: 安値 138.05 円 高値 142.25 円 終値 139.17 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1) 今週の予想レンジ: 1.0250 ~ 1.0550 143.00 ~ 147.00 円

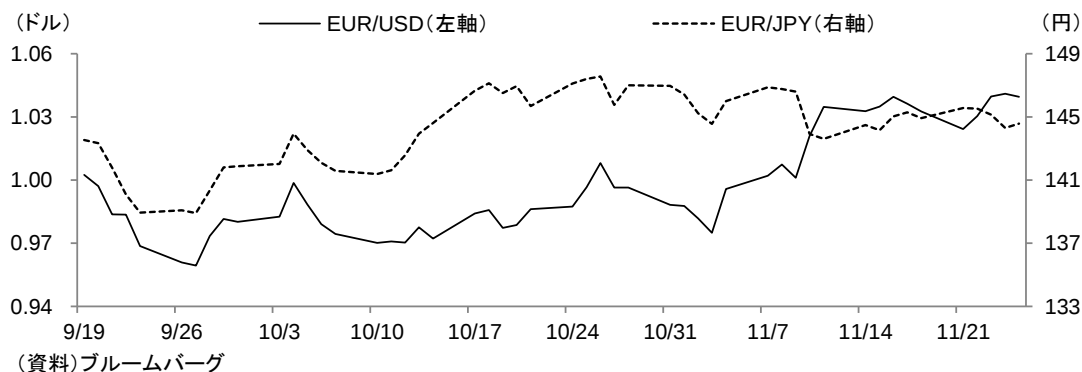
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロは週初やや下押し圧力がかかるも、週半ばにかけて上昇し、その後は高値圏での推移となった。21日は1.0332でオープン。OPECプラスでの増産が否定された発言を背景とした原油価格の上昇に、欧州のエネルギー供給不安が再燃し、1.03台を割り込み、一時週間安値となる1.0223まで下落。22日は米金利の低下や株式市場の堅調推移によりドル売りが進み、1.03台を回復。23日は米11月製造業/サービス業PMIなどが予想を下回る結果となったことを受けドル売りが優勢。FOMC議事要旨で、前回会合時に利上げペース鈍化について議論がなされたことが伝わると、もう一段ドル売りが進み、ユーロも一時1.04台を超える水準まで上昇した。24日はECB議事要旨で、前回会合時に数人が+50bp利上げを主張したことが伝わるも、米国休日で流動性も高くない中、前日から続くドル売りが優勢。一時週高値となる1.0447まで上昇後はやや値を戻し、1.04台前半でクローズした。25日は目新しい材料のない中、動意を欠く展開。終日を通して1.04を挟んで方向感のない推移となり、1.0403で越週した。

今週のユーロも引き続き底堅い推移を予想する。本格的な冬場の到来によるエネルギー供給問題や金利の引き上げ局面における景気減速懸念など、ユーロ圏内に課題が山積している状況に変わりはないものの、これまでユーロの下落に大きく寄与してきた米国の金融引き締め策において、利上げペース鈍化の思惑がここへきてかなり強まってきている。12月2日(金)に発表が予定されている米11月雇用統計の結果次第で急速にドル買いが進む可能性には注意が必要ではあるものの、米10月CPIの結果に端を発した利上げペース鈍化の思惑、それに伴う旺盛なドル売り需要が、引き続きユーロの下値のサポートとして作用すると考えられる。また30日(水)に発表が予定されているユーロ圏11月CPIの結果にも注目しておきたい。前回10月の結果は+10.6%と統計開始以来初の2桁の伸び率を記録した。現状ECBの政策は景気減速にはやや目をつむり、インフレ退治を優先している側面が強い。次回会合での利上げ幅について、欧州各国の連銀総裁の発言には現状ばらつきがみられるものの、内容次第では一定程度今後の方向性を見通せる可能性があるため、その結果を注視しておきたい。その他今週の経済指標として、12月1日(木)にユーロ圏11月製造業PMI、2日(金)にユーロ圏10月PPIの発表が予定されている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(11/21~11/25)の値動き: (対ドル) 安値 1.0223 高値 1.0447 終値 1.0403
(対円) 安値 143.68 高値 146.10 終値 144.66



3. 英ポンド

欧州資金部 森田 大貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.2000 ~ 1.2290 167.20 ~ 169.50 円

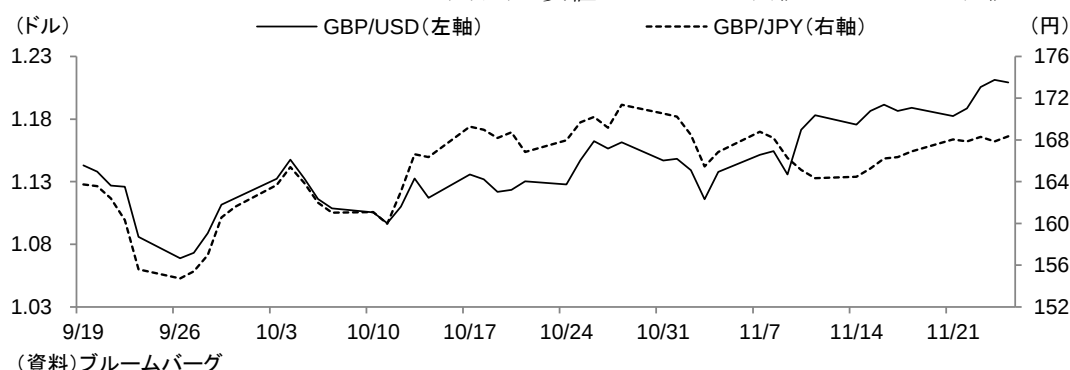
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル、対円、対ユーロともに上昇。週初21日、対ドルで1.1880でオープン。アジア時間から中国コロナ懸念を背景としたリスクオフ地合い、また先週からのドル下落巻き戻しが継続し、英ポンドはNY時間に対ドルで1.1780の週安値を示現。一方、対円ではアジア時間に166円台前半まで下落したものの、対円でのドル買いが強くクロス/円はむしろショートカバー優勢となり、168円超えまで上昇。翌22日、週初のドル買いにフォロースルーなく、動意薄ながら米株の反発に合わせ緩やかなドル売り地合いとなり、英ポンドは一時1.19超えまで反発。23日、英11月PMIは製造業、サービス業ともに予想を上回り、ここから英ポンドは大きく上昇。対ドルでは、米11月PMIの下振れやFOMC議事要旨もドル売りの流れをサポートし、翌アジア時間にかけて1.21超えまで上昇。この間、同日発表された欧州11月PMIも総じて良好な結果となったものの、英ポンドは対ユーロでも大きく上昇し、ロンドン入りの0.87レベルから0.86割れまで下落。対円でも、168円ちょうどレベルから169円まで続伸。翌24日、米感謝祭で動意に乏しい展開となる中、ラムズデンBOE副総裁からインフレ抑制のため引き締めスタンスを維持する内容のコメントが相次いだこともサポートし前日の流れが継続。英ポンドは対ドルで1.2153の週高値、対ユーロでは0.8573の安値までそれぞれ上昇。尚、BOEはMini Budget発表によるギルトマーケット急落後の緊急買いオペで購入した国債を29日より売却する方法を発表している。25日は週末に向けやや利食い優勢となり、対ドルでは1.20台後半、対円では168円台前半でそれぞれ越週した。

今週の英ポンド相場は底堅い展開を予想。先週は、米国休日やワールドカップ開幕により取引閑散となる中、リスクアセット堅調、ボラティリティ低下の展開にドル安が進み、英ポンドは対ドルで3週続伸し、8月以来の水準となる1.21台まで上昇。先週は米11月PMIが予想を下回る一方で、英国や欧州のPMIは総じて良好な結果となり、米国と他国の成長モメンタムのコントラストが意識された。FOMC議事要旨では、市場の織り込みこそ大きな変化はなかったものの、利上げペース減速が確認され12月の+50bp利上げが裏付けられる一方で、BOEからはインフレ抑制に追加の措置が必要とのメッセージが相次ぎ、相対的に中銀スタンスのコントラストも鮮明になった格好。また、今週はユーロについても経済指標やECB高官発言はユーロに総じてポジティブな内容となっているものの、ユーロポンドが週を通じて下落していることに鑑みれば、英ポンドは政治リスクが意識されてか市場のポジションにまだアンワインドの余地が残されているものと推察される。テクニカルには、心理的節目である1.20を先週明確に上抜けており、既にユーロではドル安方向にブレイクしている200日移動平均を目指す展開となろう。今週は、英国イベントはBOE高官発言が予定されている他は比較的少なく、月末フロー及び米経済指標に注目が集まる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/21~11/25)の値動き: (対ドル) 安値 1.1780 高値 1.2153 終値 1.2089
(対円) 安値 166.11 高値 169.01 終値 168.36



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.6550 ~ 0.6850 92.90 ~ 94.90 円

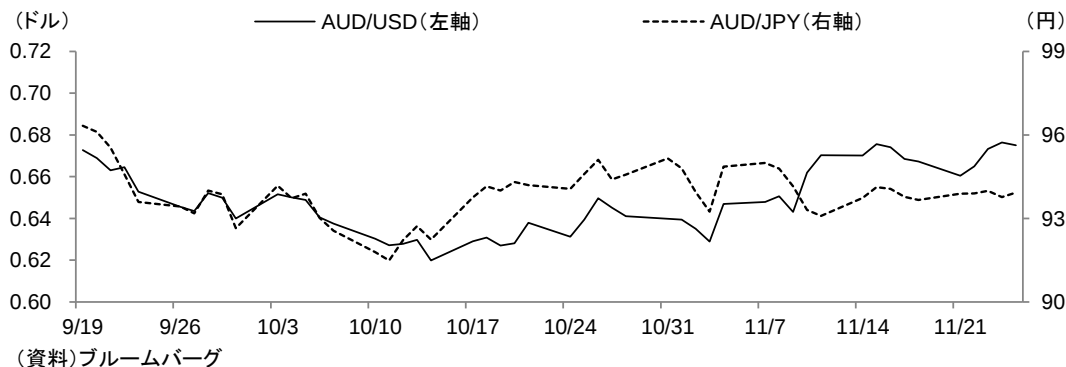
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは0.66台後半でスタート後、中国でのコロナ感染再拡大によるセンチメント悪化から0.6585まで下落したが、FOMC議事要旨で利上げペース減速が示唆された事で週後半に0.6780近辺まで上昇し0.67台半ばで越週した。21日は中国でコロナ感染再拡大した事で、ゼロ・コロナ規制がより強化されるとの思惑から中国・香港株を中心にアジア株が軟調な動きを見せ、ドル買いの流れから0.65台後半まで下落した。22日は0.66近辺から取引開始後、終日かけてじり高となり0.6650近辺まで上昇して引けた。ロウRBA総裁による講演では柔軟な利上げ幅の設定を強調するなど、従前通りのコメントに終始し、特段注目される内容はなし。23日はFOMC議事録要旨に「利上げペース減速が近く適切になる可能性が高いと判断した」と記載されており、12月FOMC会合で利上げ幅を+50bpへ減速する方向に傾いているとの思惑から、米金利の下落と共にドル売りが先行し、引けにかけて豪ドルは0.6740近辺まで上昇した。米11月ミシガン大学消費者マインドでは1年のインフレ期待が後退し、マインド指数が上昇。センチメント改善につながった。この他、シドニー日中にはRBNZが市場予想通り+75bpの利上げを行い政策金利を4.25%とした。豪NZの金利差拡大からAUD/NZDは1.0750近辺まで下値を広げた。24日は0.6730近辺でスタートし、早朝に発表されたハト派的なFOMC議事録要旨を消化しながら0.6780近辺まで上昇。特段ヘッドラインはなかったものの、ユーロ/円などで投げが入り、ドル/円でストップがトリガーすると豪ドル/円は93.80円近辺から93.10円近辺まで下落して往って来いとなった。25日は特段の牽引材料はなかったものの、0.67台後半でスタート後、0.67台半ばを挟んで振幅し越週した。

週末には中国人民銀行が預金準備率を+25bp引き下げ、コロナ禍で打撃を受けた産業への銀行支援を後押しする狙いとした。但し、中国でのゼロ・コロナ政策に対し、習主席退陣を求める大規模な抗議デモを受け、センチメント悪化から本日は豪ドルがギャップダウンしてオープンしている。日中はアジア株が弱含み豪ドルが下へ沈む可能性に注意したい。今週は28日(月)豪10月小売売上高、ウィリアムNY連銀総裁スピーチ、ブラッド・セントルイス連銀総裁スピーチ、30日(水)豪10月CPI、米11月ADP雇用統計、米7~9月期個人消費、ページブック、パウエルFRB議長講演、1日(木)中11月製造業PMI、米11月ISM製造業景況指数、2日(金)米雇用統計、エバンス・シカゴ連銀総裁の講演が予定されている。先週発表されたFOMC議事録要旨では利上げペース減速が示唆され、市場では利上げ幅が以前の想定よりも小幅に留まるとの観測が高まっている。こうしたことからターミナルレートの水準に関する高官の発言に注意を払い、豪ドルのレンジ展望を予想する上でも、市場で織り込まれている米豪金利差とそれが最大となる時期の最新の織り込み動向を確認していきたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/21~11/25)の値動き: (対ドル) 安値 0.6585 高値 0.6781 終値 0.6756
(対円) 安値 93.13 高値 94.14 終値 93.93



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。